

# 自給飼料増産計画の 策定について



**問** 昨年来の家畜飼料をはじめとする生産資材の高騰は農業経営者の自助努力をはるかに越え再生産への意欲を削いでいる。国の輸入に依存した政策

から自給政策へと抜本的な政策転換は不可欠であるが、本町としてもこれらに並行し、可能な増産対策を検討し、これまでの網羅的な農業振興計画にとどまらず、



飼料作物（デントコーン）の収穫の様子

現状の悪条件のもとでの長期的な自給飼料生産の増大に向けた行動計画を早急に策定すべきと思うがどうか。



**町長** 飼料価格の高騰

は畜産経営に深刻なダメージを与え、経営悪化の大きな要因であり、飼料自給率の向上に努め生産コストの低減を図ることが重要な取り組みとなっている。

国は、平成13年に「飼料増産推進計画」を策定し、地域の実情に応じた自給飼料増産の効果的な推進を図る各種施策を展開しており、北海道も、同様の計画を策定している。本町では、同

## 環境宣言と畜産環境問題 への取組について



**問** 本町が他町村に先駆け、環境問題に

取組むことは誇りとすべきことと思うが、併せて生産現場での環境問題も多面的な取組が必要である。

とりわけ、畜産環境では牛舎パドックや通路問題等の改善は急務であり、吸収性のよい火山灰等の大量敷設

じく平成13年に「幕別町飼料増産推進計画」を策定し、平成18年の見直しの際に、「酪農及び肉用牛の生産の振興に関する法律」に基づく「幕別町酪農・肉用牛生産近代化計画」に統合している。

補助事業等を活用した草地の整備改良など計画的に取組みを進め、自給飼料基盤強化対策事業など本年度から前倒しで実施し、今後調査研究を進めるさまざまな取組みの中で、何が必要なのか、何をすべきについて、農協等関係機関と協議する。

は牛乳の乳房炎対策面からも極めて有効な手段であり、経済的損失の削減にもつながる。これら畜産環境対策についてうかがいたい。



**町長** 畜産の生産現場

での取組みは、本案の大項目の中に、環境にやさしい農林業への取組みの中で示

され、具体的には家畜ふん尿のバイオマスを肥料化するなど循環利用を図るものである。この取組みを実践することで、畜産農家の方は家畜ふん尿の適正な管理を心がけ、耕種農家の方は有機質肥料として堆肥を使用することで化学肥料を減らし、環境負荷を低減する。他の取組みとして、畜舎など畜産関連施設の衛生管理や、施設から排出される排水の適正な管理についても大切な取組みと考えており、すでに多くの農家の方が取組んでいるが、この取組みの必要性について、さらに啓蒙に努める。

また、火山灰の確保など、農業者の方が単独で解決できない問題についても調査・研究をしたい。

